



石巻市の 姉妹都市 友好都市



茨城県 ひたちなか市

石巻市とひたちなか市の両市は、江戸時代から江戸と松前（北海道）を結ぶ海運の要衝として歴史的に深い関わりがあります。これらのことから、両市の友愛を基調として、更に親善を深め、相携えて共栄を図るために、平成18年2月13日に姉妹都市となりました。

ひたちなか市は、平成6年11月1日、旧勝田市と旧那珂湊市の合併によって誕生した、99.04平方キロメートルの面積を有する人口約15万4千人の市です。

東京から110キロメートルの距離にあり、茨城県の北東に位置し、南は水戸市と大洗町、西は那珂市、北は東海村に接しています。

市の東側は太平洋に面し、海岸線の北端には、ひたちなか地区の中心として位置付けられている常陸那珂港があり、定期連絡船のほかに、外国コンテナ船等が入港し、物資流通の要衝として整備が進められています。また、南端の那珂湊漁港では、初夏はカツオ、秋にはサンマの水揚げで活気があふれています。阿字ヶ浦海水浴場をはじめ、平磯海水浴場、姥の懐マリプール等があり、季節になると大勢の海水浴客で賑わいます。そのほか、国営ひたち海浜公園、馬渡はにわ公園や、湊公園のほか、武田氏発祥の地にある武田氏館、彩色壁画が残る虎塚古墳、那珂湊おさかな市場など名所がいっぱいで、年間約170万人の観光客が訪れます。

市の名産は、水産加工品と全国の生産量の8割を占める「ほしいも」があります。

また、平成21年に第58回を迎えた勝田全国マラソン大会には、全国から約1万6千人のランナーが参加し、冬の一大イベントになっています。



山形県 河北町

旧河北町と山形県西村山郡河北町とは、「同名」が取り持つ縁により平成13年1月に友好都市の盟約を締結し、以来両町町民による相互訪問や各種事業の実施により、交流を深めてきました。

平成17年4月の石巻市の誕生を契機に、さらに全市的に親善を深め、教育・文化・産業などの交流を促進し、互いの繁栄を図るため、平成18年1月30日に友好都市となりました。

河北町は、山形県のほぼ中央にあって、最上川と寒河江川に囲まれた、風光明媚な環境にあり、人口約2万1千人、面積5.238平方キロメートルの町です。

河北町は、早くから水田が開発され、米と紅花を中心に地域の振興を図り、最上川の舟運によって上方文化と直結しながら、優れた文化を伝えてきました。

「雛とべに花の里・河北町」では、室町時代の昔から紅花が盛んに栽培されてきました。収穫された紅花は「最上紅花」として最上川を酒田に下り、そこで積みかえられ日本海を渡って京都・大阪に送られ、最上紅花の名声を全国にとどろかせました。

当時は、全国の生産量の半分を最上紅花が占めたといわれています。現在は、「さくらんぼ」を始め「ラ・フランス」「りんご」などの果実類が盛んに栽培されています。

毎年4月2日、3日に開催される「谷地ひなまつり」では、紅花交易による当時の繁栄ぶりをうかがわせる享保雛・次郎左衛門雛・御所人形などが旧家で一般公開されます。また、9月中旬に開催される400年の歴史を誇る谷地八幡宮の大祭「谷地どんがまつり」と「林家舞楽」や江戸時代、紅花商として財をなした旧堀米邸を復元し、古文書や紅染め衣装などの貴重な資料を展示している「紅花資料館」には毎年多くの人々が訪れます。



中国 温州市

石巻市と温州市は日中両国政府の共同声明の原則と日中平和友好の精神に基づき、両市市民間の友好往来の一層の増進と相互協力及び両市の発展のため、平成17年11月17日に友好都市となりました。

温州は中国沿岸地域の中部、浙江省の東南部にあり、浙江省南部の政治、経済、文化の中心で、中国では初めての外国資本の導入を目的に設けた14の開放都市の一つであり、また農村改革実験区、総合改革と金融体制改革の実験都市、都市の情報化・工業化の実験都市でもあります。

気候は亜熱帯海洋性気候に属し、年間を通じ温暖で厳冬期間がなく、一年を通して温暖な地ということで「温州」の名がついたといわれています。

温州市は、3区（鹿城、竜湾、甌海）、2市（瑞安、樂清）、6県（永嘉、平陽、蒼南、洞頭、文成、泰順）により構成されており、人口は約740万人、そのうち市街地人口は約131万人です。陸地総面積は11,784平方キロメートルです。平野には河道がクモの巣のように縦横に交錯しています。海岸線の長さは355キロメートル、沿海には多くの島があります。海岸線の曲折など優越な条件がそろい、河港と海港が一体化する総合的な天然良港で、浙江省南部、福建省北部の貨物の出入り口になっています。

温州市は水稲と水産物が豊富なことから「魚米の里」と言われています。大部分の地域で水稲を年2回収穫でき、そのうちの7割の地域では、米のほかに大麦や小麦、アブラナなどを栽培しており、3期作地帯でもあります。海域面積は広く、洞頭、南鹿、樂清湾などの漁場を持っており、約370種類の魚が獲れます。

温州市の工業は、手工業を中心に発展してきました。現在では、靴製造、製革、服飾、プラスチック、ライター、眼鏡、ボタン、低電圧器具、印刷、ペン、かみそりなどを専門とした経済圏を形成しています。中小企業は生産と取引のコストを下げるために分業、協業をしており、一定の地区内に集中して同類の製品を生産しています。

温州は風光明媚で、雁蕩山及び楠溪江という二つの国家クラス重点風景名勝区、烏岩嶺及び南鹿島の二つの国家クラス自然保護区、仙岩及び瑤溪等の省クラス風景名勝区、蒲壮所城や玉海楼等の国文化財があります。